街の活力は自立と創造から

あのまちこの街

No. 106

■編　集■ 北海道商店街振興組合連合会
〔あのまちこの街 編集委員会〕
札幌市中央区北１条西２丁目

空き店舗をアンテナ店に

やる気と豊富なアイデアでユニークな事業をスタート

南阿佐谷すずらん商店街振興組合（東京杉並区）

東京杉並区にある商店街といえば阿佐谷が代表的だ。南阿佐谷すずらん商店街振興組合は、阿佐谷パール商店街に連続して連なる。

商店街のメインストリート「すずらん通り」は、江戸時代に大宮八幡宮・妙法寺への参道として人々が行き交った。近年では住宅地からJR阿佐谷駅へ通じる近道として近隣のなくてはならない幹線道路だ。

商店街の歴史は古く、発足は昭和二十五年「すずらん睦会」であった。その後昭和四十年には「すずらん通り商店会」として杉並区商店連合会に加盟した。

平成五年に法人化してからは、当時のテントシートを撤去し、カラー舗装や電線埋設などで、街路を明るく清潔なイメージに一新。また、再開発で店舗の建て替えが進んでいる。

平成十年からは杉並区の姉妹都市である北海道風連町の農産物や特産品の販売を始め好評を得ている。今年度、杉並区の「千客万来事業」の指定を受け、「宅配と自然の街風連町まるごと阿佐谷へ」という企画を実施。商店街一丸となってアンテナショップの開店に結びつけた。

名　称　南阿佐谷すずらん商店街振興組合
所在地　東京都杉並区阿佐谷南一―二三―一二
設　立　平成五年
理事長　筒井　弘氏（洋服生地店経営）
組合員数　五十五人（平成十五年九月現在）
街路延長　百八十㍍
商店街の種類　最寄品中心の近隣型。半径一㌔、五万人を商圏とする
大型店等　街区には無し
主な商店街事業　すずらんフェスティバル、すぎなみカード、宅配事業、物産品販売、アンテナショップなど

商店街を明るいイメージに

任意会時代（昭和四十年から平成五年まで）のすずらん通り商店会は、日除けテントの設置をはじめ、第一金曜・土曜開催のすずらん市など数多くのイベントを行なってきた。

法人化後の平成九年、東京に珍しく降った大雪で老朽化したテントは、雪の重みに耐えられず落ちてしまった。

そこで翌年に予定していたハード整備を、都が事業認可をしたことで半年前倒しで実行することになった。

テントを撤去し、都と区の助成で街路灯、ゲートを取り替えた。道路はカラー舗装し、電線類は地下埋設にした。街路はきれいに整備され「明るいイメージになった」と来街者の評判も上々である。

全国の物産市で賑わい

杉並区と上川管内の風連町は姉妹都市。これがきっかけとなり、平成十年には同町のマスクメロンやアスパラなど農産物や特産品の販売を始めた。

区役所の物産市として年に四～五回、各三日間ほど実施。毎回の仕入は百六十万から百七十万円になった。車両を二十四時間通行止めにして、商店街の路上やマンションのエントランスなどで開いた。

平成十一年秋には「すずらんフェスティバル」を同時開催。大学、専門学校、小中学校の協力でサンバカーニバル・和太鼓・フラダンス・落語を実施。また、餅つき大会・屋台・フリーマーケットなど商店街全体がイベント会場となった。

また、昨年から岩手県石鳥谷町の物産品の販売を始めた。ここではりんご、米、酒、菓子などを置く。オープンしたばかりということもあって、一日で三日分を完売するなど大盛況だった。

今年はわんこそばを披露した。

同商店街には沖縄のショップもあり、地域のお客さんにとっては、居ながらにして産直の味を楽しむことができると好評だ。

一方商店街では新規出店にさいして、業種のバッティングを出さないよう、場合によっては断ることもあるという。物産市の開催によって役所間や人の交流なども盛んになった。

すずらんを形どった街路灯が並ぶ

宅配事業を大々的にPRする横断幕

マンションのエントランスをイベントなどに活用することがある

空き店舗を活用し開設した風連町（上川管内）のアンテナショップ

風連町のアンテナショップ

同商店街は、平成十五年度の杉並区「千客万来事業」の認定を受けた。「宅配事業と自然の街風連町まるごと阿佐谷へ」という企画が対象となっている。

先客万来事業は、やる気のあるユニークなアイデアに対して一千万円を補助するというものである。すずらん商店街は三番目の指定である。

この事業は二つの柱（アンテナショップと宅配事業）から成る。

まず物産市も四年目となり近隣へ定着してきたことから、アンテナショップとして独立することにした。

今年十月、三十三平方㍍の空き店舗を借り上げ、オープンした。スタッフを常駐させ通年営業する。

出店・運営には杉並区や東京都の補助事業を活用し、同商店街が経営主体となり人件費や空き店舗使用料を負担する。

当初は日持ちのするお菓子やワインなどの特産品を販売するほか、観光情報の提供も行なう。

地域と密着していく街へ

平成十四年にポイントカード事業「すぎなみカード」を始めた。大型店に対抗したもので、個店が協力して売り上げ増と宣伝効果を狙っている。

阿佐谷のほかに高円寺、荻窪、浜田山の約四百店が参加する。規模の大きさでは他に類をみない。

すずらん商店街では来年度、特産品・農産物販売を目的とする協同組合を設立する予定だ。また、バッテリー自転車を導入して高齢者の買い物の手助けをしていくという。空き店舗事業も多目的な用途へ使用を展開していく考えだ。

商圏内の六十歳以上の高齢者は二十三％弱で四人に一人の割合となっている。顧客の取り込みと商圏の拡大を図るには地域との密着が必要。同商店街は「千客万来・アクティブ商店街」をモットーに一丸となり取り組んでいる。

高齢者向け宅配事業を開始

同月、先客万来事業の一環として宅配事業「すずらん宅配便」を開始した。外出が困難な高齢者に必要なものを届けたり、買い物をして重くなった荷物を自宅に届けるサービスだ。

前述した風連町アンテナショップに事務所を併設。宅配センターとして利用する。

同商店街には生鮮食品店、衣料等物販店が十五店ある。酒店、和菓子店など不足する商品は近隣の商店街に協力を依頼した。

配達地域は商店街から半径約一㌔の範囲。宅配業務には六十歳以上の高齢者を採用した。一人二時間から三時間で常時三人くらい待機させる。

配達料金は一回二百円。日曜日以外は取り扱いし、各商店から集まった品物を配達。代金を預かり各店に支払うという仕組み。

同商店街が作成した参加店の商品カタログを見て電話やFAX、インターネットのHPで二十四時間注文を受け付ける。各町会、NPO、介護、身障者団体等に働きかけて固定客の確保を図りたいとしている。

また、一人暮らしの高齢者の状況を把握して介護のネットワークを作ることも視野に入れており、地域と密着することで商店街の未来に賭けようという取り組みである。

先客万来事業には区からの補助金一千万円が三年間受けられる。同商店街としては、このアンテナショップ兼宅配センターを窓口として消費者と産地を直接つなぐ個別宅配事業も早期に立ちあげていく考えがある。

商店街憲章

わたくしたちは、商店街の組織のもと振興・融和・団結をめざします。

- わたくしたちは、常に地球環境に配慮して、豊かな未来づくりに努めましょう。
- わたくしたちは、常に世界に目を向け、小売商業の振興と北海道の発展に努めましょう。
- わたくしたちは、常に地域住民とともに、人間主義の豊かな地域社会づくりに努めましょう。
- わたくしたちは、常に自己啓発し、真の商人道を追求して、地域住民の生活安定に努めましょう。

平成７年５月25日制定